

包装技術講習会

～ 洗面器包装の集約化とパルプモールドの曲げ強度向上、
水性フレキシ印刷の現状と課題について ～

日時 2020年11月11日(水) 13:25~16:15
会場 「Zoomウェビナー」を利用したオンラインセミナー形式
※お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内いたします。
参加費 無料

プログラム

【コーディネーター】

フタムラ化学株式会社 中部統括開発グループリーダー（包装専士） 花市 岳氏
あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室 主任研究員 佐藤 幹彦氏

13:30~14:30

「水性フレキシ印刷の現状と課題 ～水性フレキシ協議会の今後～」

佐川印刷株式会社 軟包材営業部 係長（包装管理士） 時田 直知氏 ほか

水性フレキシ印刷が環境に良く、食品包装として安全性が高いことは周知の事実だが、実際に印刷を行っているコンバーターの立場から水性フレキシ印刷の現状と課題を挙げるとともに、その課題を克服するために立ち上げた「水性フレキシ促進協議会」について紹介致します。環境問題及びその中で水性フレキシ印刷が選ばれる理由、水性フレキシ印刷の現状とメリットについて。水性フレキシ印刷の課題と今後の展開・拡大、水性フレキシ促進協議会の発足と目的について。水性フレキシ促進協議会の事業内容及び今後の展開、東京PACK出展に向けた動きを交えて。グラフィ印刷と共存する中で、水性フレキシ印刷を推進していく事をお伝えしていきます。

14:30~14:45 質疑応答・休憩

14:45~15:15

「大きく異なる形状の洗面器包装の集約化」

株式会社トーモク 開発営業部（包装管理士） 野尻 佳佑氏

近年の洗面器は消費者のニーズに答えるためバリエーションの多様化が進んでおり、今回包装開発に取り組んだ洗面器3品番は寸法や形状が異なっていたが、シリーズ品番のため包装材の統一化を検討。大きく異なる製品の包装兼用化は作業性、資材管理の観点からも大きな課題であった。包装作業者が混乱しないように同じ緩衝材・設置手順で固定できるように配慮し、付属品収納区画を天面パットに集約することで包装材の点数も最小限になるように設計を行った。

15:15~15:30 質疑応答・休憩

15:30~16:00

「パルプモールドの積層加工による強度向上」

あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室 主任 村松 圭介氏

パルプモールド（ソフトモールド）は基本的にパルプのみから作られるリサイクル可能な成型品で、鶏卵や果物用のトレーのほか、工業製品の緩衝固定材としても広く利用されています。しかしパルプモールドはパルプを型に吸着して作製するため、厚さに限界があります。厚さに限界があるため強度にも限界があり、特に曲げ荷重への対応は困難でした。そこで本研究では、2枚のパルプモールドを重ねてプレスする方法により、最も厚いパルプモールド単体を超越する曲げ強度を得ることができました。また、パルプモールド単一素材で作製したパレットに対してパルプモールドの補強材をはめ込むことで、曲げ強度を向上しました。

【注意事項とお願い】

「Zoomウェビナー」を利用したオンライン形式で開催いたします。下記の内容について、事前にご確認ください。

- ①ご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況等により視聴し難い場合があります。通信費・接続利用料金等は、参加者の自己負担となります。
- ③参加申込をいただいた方には、Eメールで参加手順等をご案内いたしますので、事前にご確認ください。
- ④本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得等によるデータ保存行為を固く禁止します。また、講演資料は参加者のみの利用に限定しますので、無断で複写・配付・公開する等の行為を行わないでください。